

IV 図画工作 3年次の成果と課題

1 成果

(1) 試行錯誤を通して効果的な表現方法を「選択・決定」するための手立ての工夫

表したいイメージに近付くように表現を工夫する力を育むために、これまでに学んだ様々な表現方法を示したヒントコーナーや、参考作品を使って例示するなどの手立てを取り入れたことで、自分の表したいことに合わせ試行錯誤しながら表現方法を選択する子どもの姿が見られた。一単位時間の導入では、表したいことに合わせて形や色を考えていく姿を期待し、子どもの思いを言語化して表したいことを見付けることができるように、仲間と「対話」する場を設定した。表したいことに合う表現方法を全体で考える場を設けることで、作品づくりの見通しをもつことができた。

様々な表現方法について試すことができる場を設定したことで、自分の表したいことに、より近付ける表現はどれか、子ども自身が実感を伴って「選択・決定」することができた。また、製作途中に限らず、題材の初めに材料や用具、表現方法に慣れ親しむ時間を十分にとるなど、その学年や発達段階に応じて適切に試しの場を設定していくことで、表現方法を工夫する姿にもつながった。

(2) 自分の学びを自覚し、表したいことに近付けるための省察の場の工夫

イメージや形、色などに着目した「見方・考え方」を働かせて自分の学びを省察するためには、自分の表したいことをはっきりともつことが大切である。表したいことをどのように表すかを構想するために、学習カードを活用することによって、低学年でも表したいことをはっきりさせて作品づくりに取り組む姿が見られた。学習カードに描いているイメージは付け加えたり変えたりしてもよいとすることで、当初のイメージだけに縛られることなく、表したいことに近付いているかを省察しながらのびのびと表すことにつながった。

また、作品の製作途中に仮の題名を付ける活動を取り入れることで、一人一人の作品づくりの方向性が具体的になり、題名に合っているか活動を通して省察する姿が見られた。「こう表したい」という意図をもって表現方法を選択して表し、省察し、また表し直すことで、表現方法を工夫した自分の変容に気づき、自分の学びの自覚にもつながった。

2 課題 表現方法を選択するための力と省察の場の位置付け

自分の表したいことに合わせて表現方法を選択するためには、様々な表現方法を知識として定着させておくことと、使いこなす技能が身に付いていることが必要である。知らないことは選択肢にならず、技能が十分に身に付いていないままでは表現を工夫することができない。題材の配列に系統性をもたせたり、技能を身に付けるための題材を効果的に位置付けたりすることなど、造形的な知識や技能、「見方・考え方」を一人一人が身に付けることができるような手立てを探っていく。

身に付いた力など自分の学びを自覚して一般化し、他の題材や生活場面に活かすことができるように、省察の場を題材の中でどう位置付けるかも重要である。作品づくりのものさしとなる「見方・考え方」に気づくことができるように、鑑賞を効果的に取り入れたりと、作品のよさや美しさを価値付けたりしていく場を工夫していきたい。